

障害児入所施設（福祉型）の課題整理

社会的養護機能

【課題】

- ① 社会的養護を必要とする障害児が多く入所している現状を踏まえ、障害児入所施設の社会的養護機能について、どう考えるか。また、これを推進するための方策について、どう考えるか。
- ・ 被虐待児への支援を適切に行うための専門性の確保
 - ・ 児童養護施設、里親、ファミリーホーム等の社会的養護分野への支援・連携強化

（これまでの検討会における意見）（※事務局の責任においてとりまとめたもの。以下同じ）

- ・ 被虐待の子に対する心の回復のためのケアを専門的に行う必要があり、他職種の専門家の配置も必要。（相澤構成員）
- ・ 児童養護施設と障害児入所施設の連携、体制の見直しが必要。（青木構成員）
- ・ 障害児支援分野から社会的養護分野（児童養護等施設、里親、フォスターリング機関の受託等）にどう後方支援が出来るかもテーマ。保育所等訪問支援等の推進等。（柏女座長）
- ・ 障害児入所施設が里親フォスターリング機関をやりながら、いろいろな子育て支援をサポートするような拠点になることが必要。（相澤構成員）
- ・ 里親やファミリーホームをバックアップする機能を付加するといった政策が大事。（日本知的障害者福祉協会）
- ・ 障害の施策とか、子ども家庭局の施策とか、そういう意味で総合化、包括化できるようなことについても内部で検討が必要。（相澤構成員）
- ・ 障害児入所施設も里親支援機関のような役割を持って、専門性をアウトリーチで里親、ファミリーホームの支援を担うことを希望する。（日本ファミリーホーム協議会）
- ・ 障害に関する専門性のさらなる向上とともに、アタッチメントの発言がおくれる場合の受けとめや、家族・家庭養育の支援、また市長村や児童相談所などとの連携は強化が必要。（全国乳児福祉協議会）
- ・ PT、OT、ST など、障害児療育の専門職に乳児院を訪問いただき、障害のある・疑われる子供の養育に関する助言を受けることは大変有効。（全国乳児福祉協議会）

- ・ 保育所等訪問支援の活用などにより、障害児入所施設の専門職による障害児支援技術の共有化が期待される場所である。(全国児童養護施設協議会)
- ・ 進路支援や退所後の生活、障害児入所施設でのこれまでの経験の蓄積や、それに対する対応のノウハウも児童養護施設でも学びながら、子供たちのアフターケアに生かしていくことが必要(全国児童養護施設協議会)